

学 校 名	福生市立福生第七小学校
コーディネーター数	1人
ボランティア数	17人

□ 活動の概要

小学校第5学年 総合的な学習の時間 「伝統文化の学習」

学 習 内 容：日本に伝わるお正月のしめ縄飾り作りについて体験学習する

講 師：地域にお住まいの村野さん

サポーター：町会のみなさん

5学年が3・4校時を使い、一人が一つずつしめ縄飾りを作った。今年はJETプログラムによる外国青年との交流もあり、一緒に日本の伝統文化の体験学習を行うことができた。講師とサポーターの紹介の後、講師からしめ縄飾りについてお話いただき、全国に伝わる様々なしめ縄飾りの写真を見せていただいた。児童が実際に作るしめ縄飾りの作り方の説明としめ縄の縄い方の実演の後、児童3人にサポーター1人が付き、更にもう1人補助として大人が入り、作業を行った。

しめ縄を縄うという経験は初めての経験で児童たちは3人一組で協力して縄うていった。しめ縄の輪ができると、装飾部分の作成をした。それぞれの飾りに縁起の良い意味があることを教わり、児童たちは真剣に聞き入っていた。装飾を付け、自分のしめ縄飾りができあがると児童たちは皆とても嬉しそうだった。地域の方々も笑顔でサポートしてくださり全員が時間内に作り終えた。



□ コーディネーターの役割

- 学校から要請があり日程と授業内容の確認をし、学校の希望を町会長と講師の村野さんに伝え依頼した。
- 西多摩新聞社へ取材の依頼をした。
- 村野さんより計画書をいただき担任教諭、校長先生と確認した。
- 当日は材料の搬入、準備から手伝い、児童のしめ縄飾りの作成の補助をした。また学校の取組を西多摩新聞の記者に説明した。
- 翌日、町会長、講師村野さんに謝意を伝え、村野さんと来年以降の取り組みについて話した。

□ 活動上の工夫や配慮等

- 例年と違い、単学級で行うため、サポーターさんの人数を多く募った。
- 講師の方の声が通るように簡易マイクとスピーカーを準備した。
- 難聴の児童のための補助のピンマイクを講師に付けていただいた。

□ 活動の成果や感想（実践を通じた児童・生徒、地域の活動者、学校等の声や反応など）

今回で7年目の取り組みとなったが、人数が多かったためスムーズに進行できるかが課題だった。大勢のサポーターの協力と講師の方の事前の計画立てにより時間内に全員が作り終えた。サポーターの皆さんも終始笑顔で接してくださり児童たちは楽しく学習できた。サポーターの高齢化が課題であり、継承のためには保護者もサポーターに加わってほしいとの意見があった。